

レジメンcode:	C35-54	備考
適応がん種:	非小細胞肺癌	
レジメン名:	Trastuzumab Deruxtecan療法	
間隔:	3週間	

略名	抗がん剤(採用薬品名)	投与量	単位	投与方法	投与日
	エンハーツ	5.4	mg/kg	点滴[*1]	d1

#### day1【ケモセーフ使用】

1) パロノセトロン	0.75mg	1	V	
デキサート	6.6mg	1	V	
デキサート	3.3mg	1	A	
生食	50ml	1	本	
	主管①	点滴	15	分
2) ブドウ糖液5%	50ml	1	本	
	主管②	点滴	15	分
3) エンハーツ		5.4	mg/kg	<b>【ケモセーフ使用】</b>
注射用水	100ml	1	本	インラインフィルター必須
ブドウ糖液5%	100ml	1	本	1Vあたり注射用水5mlで溶解
				点滴バッグを遮光し、4時間以内に投与すること
	主管③	点滴	90	分
				[*1]2回目以降は30分まで短縮可能
4) ブドウ糖液5%	50ml	1	本	
				フラッシュ用

〈所要時間 約2時間〉

〈初回 約3時間〉

#### 【文献】

国際共同第II相試験(DESTINY-Lung02試験 PMID:37694347)

\*適応: がん化学療法後に増悪したHER2(ERBB2)遺伝子変異陽性の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌

\*本剤の一次治療における有効性と安全性は確立されていない。

\*投与開始前及び投与中は、臨床症状を十分に観察し、定期的に胸部CT検査、胸部X線検査、動脈血酸素飽和度(SpO2)検査、心機能検査などを行う。また、定期的な検査を実施する。

\*休薬・減量・中止基準あり。次ページ参照。

\*本剤(エンハーツ)と生理食塩液との混合は避けること。

\*点滴バッグを遮光し、4時間以内に投与終了すること(冷所2~8°Cで24時間まで可能)。

次ページあり

\*減量・中止する場合の投与量

減量レベル	投与量
通常投与量	5.4mg/kg
一次減量	4.4mg/kg
二次減量	3.2mg/kg
中止	3.2mg/kgで忍容性が得られない場合、投与を中止する。

副作用	程度 <sup>注)</sup>	処置
間質性肺疾患	Grade 1の場合	投与を中止し、原則として再開しない。ただし、すべての所見が消失し、かつ治療上の有益性が危険性を大きく上回ると判断された場合のみ、1用量レベル減量して投与再開することもできる。再発した場合は、投与を中止する。
	Grade 2~4の場合	投与を中止する。
左室駆出率(LVEF)低下	40% ≤ LVEF ≤ 45%	ベースラインからの絶対値の低下 < 10%
		ベースラインからの絶対値の低下 < 10%に回復しない場合は、投与を中止する。
		ベースラインからの絶対値の低下 ≥ 10%かつ ≤ 20%
	LVEF < 40%又はベースラインからの絶対値の低下 > 20%	休業し、3週間以内に再測定を行い、再度LVEF < 40%又はベースラインからの絶対値の低下 > 20%が認められた場合は、投与を中止する。
症候性うっ血性心不全		投与を中止する。

副作用	程度 <sup>(1)</sup>	処置
QT間隔延長	Grade 3の場合	Grade 1以下に回復するまで休薬し、回復後、1用量レベル減量して投与再開する。
	Grade 4の場合	投与を中止する。
Infusion reaction	Grade 1の場合	投与速度を50%減速する。他の症状が出現しない場合は、次回以降は元の速度で投与する。
	Grade 2の場合	Grade 1以下に回復するまで投与を中断する。再開する場合は投与速度を50%減速する。次回以降も減速した速度で投与する。
	Grade 3又は4の場合	投与を中止する。
好中球数減少	Grade 3の場合	Grade 2以下に回復するまで休薬し、回復後、1用量レベル減量又は同一用量で投与再開する。
	Grade 4の場合	Grade 2以下に回復するまで休薬し、回復後、1用量レベル減量して投与再開する。
発熱性好中球減少症		回復するまで休薬し、回復後、1用量レベル減量して投与再開する。
貧血	Grade 3の場合	Grade 2以下に回復するまで休薬し、回復後、同一用量で投与再開する。
	Grade 4の場合	Grade 2以下に回復するまで休薬し、回復後、1用量レベル減量して投与再開する。
血小板数減少	Grade 3の場合	Grade 1以下に回復するまで休薬する。 7日以内に回復した場合は、同一用量で投与再開する。 7日を過ぎてから回復した場合は、1用量レベル減量して投与再開する。
	Grade 4の場合	Grade 1以下に回復するまで休薬し、回復後、1用量レベル減量して投与再開する。

総ビリルビン増加	Grade 2の場合	Grade 1以下に回復するまで休薬する。 7日以内に回復した場合は、同一用量で投与再開する。 7日を過ぎてから回復した場合は、1用量レベル減量して投与再開する。
	Grade 3の場合	Grade 1以下に回復するまで休薬する。 7日以内に回復した場合は、1用量レベル減量して投与再開する。 7日を過ぎてから回復した場合は、投与を中止する。
	Grade 4の場合	投与を中止する。
下痢又は大腸炎	Grade 3の場合	Grade 1以下に回復するまで休薬する。 3日以内に回復した場合は、同一用量で投与再開する。 3日を過ぎてから回復した場合は、1用量レベル減量して投与再開する。
	Grade 4の場合	投与を中止する。
上記以外の副作用	Grade 3の場合	Grade 1以下に回復するまで休薬する。 7日以内に回復した場合は、同一用量で投与再開する。 7日を過ぎてから回復した場合は、1用量レベル減量して投与再開する。
	Grade 4の場合	投与を中止する。